

# 自然災害時の危機管理の意思決定に関する一考

岡安 徹也<sup>1</sup>・湧川 勝己<sup>2</sup>

<sup>1</sup> (一財) 国土技術研究センター 河川政策グループ  
E-mail: t.okayasu@jice.or.jp

<sup>2</sup> (一財) 国土技術研究センター

大規模災害への備えとして、防災施設整備だけではその整備の完成までには長時間を要するなどのために、現状では大規模な災害に対する被害を軽減するには至らない状況にある。

従って、災害発生時もしくはその発生が予測される場合に、被害を軽減するための、例えば、避難指示の出し方などのオペレーションが重要な位置を占めてきている。

しかしながら、洪水対策については、度重なる浸水被害の発生から避難判断水位の検討などは進んでいるものの、他の自然災害では検討が進んでおらず、多くの問題を抱えているといえる。

そこで、既往の自然災害時の危機管理の意思決定問題に関する課題と論点を整理し、被害を軽減するための危機管理の意思決定問題に対する基本的な考え方と課題解決の方向性について検討している。

具体的には、自然災害の進行過程を考慮したステージの提案とステージ毎の意思決定事項及び意思決定に必要な情報及び意思決定構造について検討している。また、意思決定に重要な位置を占める専門家の役割と位置付けについて検討している。

本発表では、現在検討中の内容についてご紹介し、今後の検討に関する示唆を頂ければと考えている。

キーワード：危機管理，意思決定，情報，専門家